

詔諫例

〔皇都午睡三編上〕上方で買て來るを、江戸にては買て來る。中人の子を愛するにも、ア、い、坊様だ子エ、おと、様にも、おか、様にもよく似ていさつせることは、など、追從を、おベツカと云しが、近世胡麻を摺と流行詞に變名しけり、

〔日本書紀神代〕故高皇產靈尊召集八十諸神而問之。於是俯順衆言、即以天穗日命往平之、然此神倭フナリコビテ媚於大己貴神、比及三年、尙不報聞、故仍遣其子大背飯三熊之大人、大人此亦名武三熊之大人、

此亦還順其父、遂不報聞、

〔延喜式八〕出雲國造神賀詞

高天能神王高御魂神御魂命、皇御孫命、天下大八島國、事避奉之時、出雲臣等、遠祖天穗比

命、國體見、遣時、天、八重雲、押別氏、天翔國翔氏、天下見廻氏、返事申給久、豐葦原、水穗

國波、晝波、如五月蠅水沸、夜波、如火釜光神在利、石根本立、青水沫、事問、荒國在利、然、鎮平、天

皇御孫命、安國止平久、所知坐、申氏、己命兒天夷鳥命、布都怒志命、副天、天降遣、荒留神

乎撥平氣、國作之、大神、媚鎮天、大八島國現事顯事、令事避、

〔秦山集雜著二十一〕以穗日命爲不忠、諸家傳來如此、然視吾、傳土津、日穗日命含日

神命、調護大汝命、左提右携、遂成大功、其忠大矣、後使穗日命祀大汝命、誠有以也、此見于土津親筆

可謂定說也、如從諸家傳、穗日命罪不容誅、於事爲不通、今出雲國造及菅原姓皆其裔也、

〔續日本紀三十〕神護景雲三年九月己丑、始太宰主神習宜阿曾麻呂希旨、方媚事道鏡、因矯八幡神教

言、令道鏡卽皇位、天下太平、道鏡聞之、深喜自負、

〔閑際筆記上〕藝州安國寺瓊長老、豐臣公、詔事、人皆其姦、不知、一日小早川隆景、毛利輝元、語曰、

我嘗瓊ト公ニ侍、公話偶其先妣薨御ノ事ニ及、涕下コト數行、瓊モ亦泣、瓊ガ心何哀戚スルコト有、

唯是僞耳、公不察之、親愛益深、公死只恐ハ此僧國ヲ誤ト申レシガ、果石田ニ與シテ命ヲ殞セリト